

現状の調査プロットを継続して利用する保護林の基礎調査結果

○吾妻山周辺森林生態系保護地域	1
○日山ミズナラ植物群落保護林	2
○深沢ヒノキアスナロ植物群落保護林	3
○上野檜原のシオジ植物群落保護林	4
○天丸山天然ヒノキ植物群落保護林	5
○元清澄山林木遺伝資源保存林	6
○朝日山地森林生態系保護地域	7
○飯豊山周辺森林生態系保護地域	8
○赤谷天スギ植物群落保護林	9
○目指岳コウヤマキ林木遺伝資源保存林	10
○大久蔵トチノキ林木遺伝資源保存林	11
○猿ヶ城岩オオフジシダ植物群落保護林	12
○上佐野植物群落保護林	13
○安倍峠オオイタヤメイゲツ植物群落保護林	14

吾妻山周辺森林生態系保護地域

設定目的	吾妻山周辺森林生態系保護地域は、吾妻連峰一帯に賦存するアオモリドマツを主体とした亜高山性針葉樹からなる原生的な森林と、山地湿原、雪田草原、瀑布等の変化に富んだ景観を有し、さらには、本地域を南限または北限とする植物の分布、原生的な森林に生息する貴重な動物相がみられる等自然に恵まれた地域である。これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定する。
調査結果	
林分概況	オオシラビソ群集、クロベ－ヒメコマツ群落、ササ自然草原、イタドリ－コマススキ群落が保護林の大部分を構成している。現況では、イタドリ－コマススキ群落のモニタリング調査地点が不足しているが、この群落が分布する一切経山南東側は火山ガスによる立入禁止ルートが含まれるため、地点の追加が困難である。
調査プロットの代表性検討結果	前回調査のプロット1は、胸高直径20-40cmのキタゴヨウが優占し、ダケカンバが混生する林相で、前回調査のプロット2は、胸高直径20-35cmのオオシラビソが優占する林相で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。
課題等	調査プロットを設定したキタゴヨウ群落、オオシラビソ群落において特に問題は見受けられず、動物調査や、利用動態調査についても問題は見受けられていない。

日山ミズナラ植物群落保護林

設定目的	阿武隈山地の原生林に準ずる天然生ミズナラ林の保護
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。保護林内の斜面部にミズナラの優占する樹林が分布し、谷部に、ブナやケヤキの優占する樹林が分布している。次世代を担うミズナラの低木や稚樹は少ないものの、中齢から老齢級のミズナラが多く生育し、保護対象であるミズナラ群落は、良好な状態で維持されている。ナラ枯れなどの病虫害は発生していない。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1・2は、胸高直径30-80cmのミズナラが優占する林相で、ナラ枯れなどの病虫害は発生しておらず、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。</p>
課題等	<p>次世代を担うミズナラの低木や稚樹は少ないものの、中齢から老齢級のミズナラが多く生育し、保護対象であるミズナラ群落は、良好な状態で維持されている。ナラ枯れなどの病虫害は発生していない。調査プロット内において、ミズナラの実生の生育状況に注目した森林調査を継続する。</p>

深沢ヒノキアスナロ植物群落保護林	
設定目的	天然生ヒノキアスナロ群落の純林の保護。
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。保護林全体に中齢から高齢級のヒノキアスナロが生育し、林床には低木・稚樹が多く見られて自然更新の状況も確認され、保護対象であるヒノキアスナロ群落は、良好な状態で維持されている。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1・2は、胸高直径20-50cmのヒノキアスナロが優占する林相で、胸高直径5~15cm程度のヒノキアスナロに種内競争によると考えられる枯損が認められるものの、高齢木に枯損は見られず、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。</p>
課題等	<p>高木層を形成するヒノキアスナロは健全に生育し、また低木層、草本層には次世代を担うヒノキアスナロの生育も認められており、ヒノキアスナロ群落は良好な状態で維持されている。</p>

上野檜原のシオジ植物群落保護林

設定目的	北沢一帯のシオジ天然分布の北限及びシオジを中心とする貴重な天然林の維持並びに植物社会の特殊な遷移の生態学的考証。
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。保護林全体に中齢から高齢級のシオジが生育し、林床には低木・稚樹が生育して自然更新の状況も確認され、保護対象であるシオジ群落は、良好な状態で維持されている。保護林内において、ニホンジカの食痕や糞、保護林へ向かう途中でもニホンジカの痕跡が多数見られるが、植生に強い影響を及ぼすほどの被害は確認されていない。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1・2は、胸高直径40-60cmのシオジが優占する林相で、高齢木に枯損はほとんど見られず、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。</p>
課題等	<p>上層を構成するシオジは健全に生育し、次世代を担うシオジの低木や稚樹も生育している。ただし、シカの個体数増加によっては、シカによる食害、林床植生への影響が予想されるので、経過に留意する必要がある。</p>

天丸山天然ヒノキ植物群落保護林	
設定目的	ヒノキ、シオジ、イヌブナ等を中心とする天然林及び、ハコネコメツツジの貴重な群生地での植物学的考証。
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。次世代を担うヒノキの低木や稚樹は少ないものの、保護林全体に中齢から高齢級のヒノキが生育し、イヌブナが混生する林相にあり、保護対象であるヒノキ群落は、良好な状態で維持されている。ヒノキは保護林内の岩場に多く生育している。シカによるスズタケの食害が著しく、シカによるヒノキの剥皮も多くみられる。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1・2は、胸高直径30-70cmのヒノキが優占する林相で高齢木に枯損は見らず、前回調査のプロット3はハコネコメツツジが生育する地点で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。</p>
課題等	<p>上層を構成するシオジは健全に生育し、次世代を担うシオジの低木や稚樹も生育している。ただし、シカの個体数増加によっては、シカによる食害、林床植生への影響に留意する必要がある。</p>

元清澄山林木遺伝資源保存林

設定目的	房総半島においては数少ない、モミ、ツガを主とし、カシ類等の暖温帯性植物が混生する天然林である。また、林内にはヒメコマツやキヨスミツバツツジ等が自生しており林木遺伝資源として貴重であり、これらを保存するため設定した。
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。次世代を担うモミ、ツガの低木や稚樹は少ないものの、保護林全体に中齢から高齢級のモミ、ツガが生育している林相にあり、保護対象であるモミ・ツガ群落は、良好な状態で維持されている。今回の基礎調査では、キヨスミツバツツジの生育は確認されていない。ニホンジカの糞や角研ぎ痕が確認されている。また、特定外来生物であるキヨンの足跡、イノシシによる土の掘り返し痕も見られ、植生に与える影響が懸念される。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1は、胸高直径40-95cmのモミ、ツガが優占する林相で、高齢木に枯損は見られず、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。</p>
課題等	<p>保護林の主要構成木であるモミや、ツガ、カシ類については、特に問題は見受けられず、生育は良好な状態である。ヒメコマツについては、千葉県などが主体となって保全対策が進められている。ニホンジカや、特定外来生物であるキヨンの生息分布域にあたるため、保存対象種への剥皮や、食害による林床植生や後継樹への影響に留意する必要がある。</p>

朝日山地森林生態系保護地域

設定目的	朝日連峰は、日本海側型東北(雪国)気候区に属する隆起山地であり、大朝日岳を主峰とする主稜線といくつかの支稜は非対称山稜を呈している。この地域の主要部分は、人為の介入がほとんど無く、我が国最大規模のブナ林等原生的な自然状態が維持されていることに加え、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られるなど、変化に富んだ種々の生態系が展開し、多様な動植物が生息・生育している。これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため、朝日山地森林生態系保護地域を設定する。
調査結果	
林分概況	前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。チシマザサーブナ群団、ブナーミズナラ群落、自然低木群落が保護林の大部分を構成している。
調査プロットの代表性検討結果	前回調査のプロット1は、胸高直径40-70cmのブナが優占する林相で、前回調査のプロット2は、低木層にマルバマンサク、ブナが生育する自然低木群落で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。プロット1は、前回調査時に胸高直径50cm程度のブナの倒木がみられ、プロットの南側にギャップが発生しており、ブナ林の更新状況の経過把握が出来る可能性があることに留意する。
課題等	全ての群落について調査を行うのは難しいため、保護林内の景観写真などを撮影地点と方向がわかる形で記録することを検討する。また、空中写真による比較も検討する。

飯豊山周辺森林生態系保護地域

設定目的	阿武隈山地の原生林に準ずる天然生ミズナラ林の保護飯豊山周辺森林生態系保護地域は、新潟、福島、山形県境の飯豊山周辺の、日本海型気候区で豪雪地帯における典型的な山地帯から高山帯までの原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定する。
調査結果	
林分概況	前回調査時と比較して、大きな変化は確認されなかった。チシマザサ・ブナ群団、自然低木群落、ササ自然草原、ウラジロヨウラク・ミヤマナ群団が保護林の大部分を構成している。
調査プロットの代表性検討結果	前回調査のプロット1は、胸高直径50-90cmのブナが優占する林相で、調査プロット2は、山腹平衡斜面に成立しナナカマドが優占する低木群落で、調査プロット3は、急傾斜地に成立しミヤマナが優占する低木群落で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。
課題等	全ての群落について調査を行うのは難しいため、保護林内の景観写真などを撮影地点と方向がわかる形で記録することを検討する。また、空中写真による比較も検討する。

目指岳コウヤマキ林木遺伝資源保存林

設定目的	裏日本型東北・北海道型におけるコウヤマキの遺伝資源の保存。
調査結果	
林分概況	保護林内のコウヤマキの分布は尾根上に限られ、数本が生育している程度であるが、尾根上のコウヤマキ林下には、稚樹が多数確認されている。斜面上は崖地になっており、低木のミヤマナラ、リョウブ、マルバマンサクが密生している。
調査プロットの代表性検討結果	前回調査のプロット1は、胸高直径20-40cmのコウヤマキを含む林相で、前回調査のプロット2は、胸高直径18-30cmのコウヤマキを含む林相で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。
課題等	保護林内の上層に生育しているコウヤマキは数本と生育量は少ないものの、現時点では健全に生育している。また、林下に生育するコウヤマキの生存量、生育状態に留意する必要がある。

大久蔵トチノキ林木遺伝資源保存林	
設定目的	裏日本型東北・北海道型におけるトチノキの遺伝資源の保存。
調査結果	
林分概況	トチノキの保存を目的とする保護林ではあるが、保護林内にはトチノキの生育は少ない。概ね中齢から高齢級のブナが優占し、トチノキは僅かに混生している程度の状況にあることを確認した。
調査プロットの代表性検討結果	前回調査のプロット1は、胸高直径50-80cmのブナが優占し、トチノキの高齢木1本、中齢木2本を含む林相で、前回調査のプロット2は、胸高直径50-100cmのブナが優占し、トチノキの中齢木2本を含む林相で、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。トチノキの低木・稚樹の生育は僅かである。
課題等	上層に生育しているトチノキは生育量は少ないものの、現時点では健全に生育している。林下に生育するトチノキの生存量、生育状態にも留意が必要がある。

猿ヶ城岩オオフジシダ植物群落保護林

設定目的	北限分布のオオフジシダをはじめとする、北地には稀少な暖地性シダの群生地であり、これらシダ群落の保護を図ることを目的とする。
調査結果	
林分概況	前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。保護林内のオオフジシダ群落は健全な状態で維持されている。
調査プロットの代表性検討結果	前回調査のプロット1～3は、草本層にオオフジシダが生育する林相で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。生育箇所は、岩の隙間などの特定環境下のため、生育状況の把握は植生調査により行うことを検討する。
課題等	保護林内のオオフジシダは健全に生育しており、特に問題は見受けられない。

赤谷天スギ植物群落保護林

設定目的	通称赤谷スギと呼ばれる天然スギの林分で、種及び学術又は森林施業上貴重な森林であることから、この森林の保護を図ることを目的とする。
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されなかった。スギ群落が分布している区域は、中齢から高齢級のスギが生育している。生育しているスギ立木に枯損木はほとんど見られず、健全に生育している。一部、ツキノワグマによる剥皮がみられる。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1は、胸高直径30～80cmのスギが優占する林相で、前回調査のプロット2は、胸高直径30～104cmのスギが優占する林相で、いずれも保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。保護林内に森林生態系多様性基礎調査の調査地点が設置されているが、本保護林を代表する林分とは考えられないため、調査データの利用は行わない。</p>
課題等	<p>上層を構成するスギは現段階では健全に生育しているが、保護林内のスギの一部に、ツキノワグマによる剥皮が発生しているため、剥皮等の有無と程度に留意することが必要である。</p>

上佐野植物群落保護林

設定目的	上佐野地域を代表する高齢級天然林の保護。
調査結果	
林分概況	<p>前回調査時と比較して、大きな変化は確認されていない。保護林内は、中齢から高齢のスギ、ブナ、イヌブナなどが優占する群落が分布し、大径木の古い枯死木が僅かに見られるが、保護林を構成する植物群落は、健全に生育している。本保護林に分布するスギは、精英樹に指定されている(精英樹とは、同じ土壌条件の地域に生育する同種・同齢木に比べて、形質が特に優れた成長をしている樹木をいう)。</p>
調査プロットの代表性検討結果	<p>前回調査のプロット1は、胸高直径30～70cmのスギが優占し、ブナ、イヌブナの混生する林相で、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。また、前回調査のプロット2は、胸高直径30～50cmのイヌブナ、ウラジロモミが混生して優占している林相で、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。</p>
課題等	<p>保護対象種であるスギの精英樹や、高齢級のブナやイヌブナなどの上層木は健全な状態で生育している。しかしながら、林内の低木、草本層はシカの食害による影響があるため、シカ食害の影響に留意する。</p>

安倍峠オオイタヤメイゲツ植物群落保護林

設定目的	オオイタヤメイゲツの大木が群生しているもので、珍しく貴重なものであり、これを保護するため設定した。
調査結果	
林分概況	保護林内は、胸高直径30～60cm程度のオオイタヤメイゲツが優占し、イタヤカエデ、ブナなどが混在する林相となっている。シカの食害により、スズタケの葉量が落ち、枯れた樺がある。
調査プロットの代表性検討結果	調査プロット1は、30～60cm程度のオオイタヤメイゲツがまとまって生育し、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。また、調査プロット2は、30～90cm程度のオオイタヤメイゲツがまとまって生育し、保護林の代表的な地点といえるため、前回調査プロットを活用して調査を行う。
課題等	次世代を担うオオイタヤメイゲツの低木や稚樹が少ない状況にあるが、上層を構成するオオイタヤメイゲツは健全に生育している。シカによる被害について留意する。